

# 中央区内景气动向调查

平成28年10月调查结果

平成28年11月22日

中央区

— 総 括 —

平成 28 年 10 月の動き

中央区内における 10 月の現状判断D Iは合計で 49.5 と、前回調査から 7.2 ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で 49.5 と前回調査から 2.0 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I) 合計	平成28年			前回調査 からの変化
	6月	8月	10月	
現状判断D I	40.5	42.3	49.5	(7.2)
先行き判断D I	46.5	51.5	49.5	(-2.0)

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 28 年 10 月調査の調査票発送は 10 月 7 日（金）、回答期限は 10 月 18 日（火）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 50 名、有効回答率は 100.0%であった。

### 7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

# 1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で49.5と、前回調査から7.2ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは47.0と、前回調査から6.4ポイント上昇し、企業動向関連DIは52.0と、前回調査から8.0ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなっている」と回答した人の割合が12.7ポイント減少、「やや良くなっている」と回答した人の割合は11.8ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

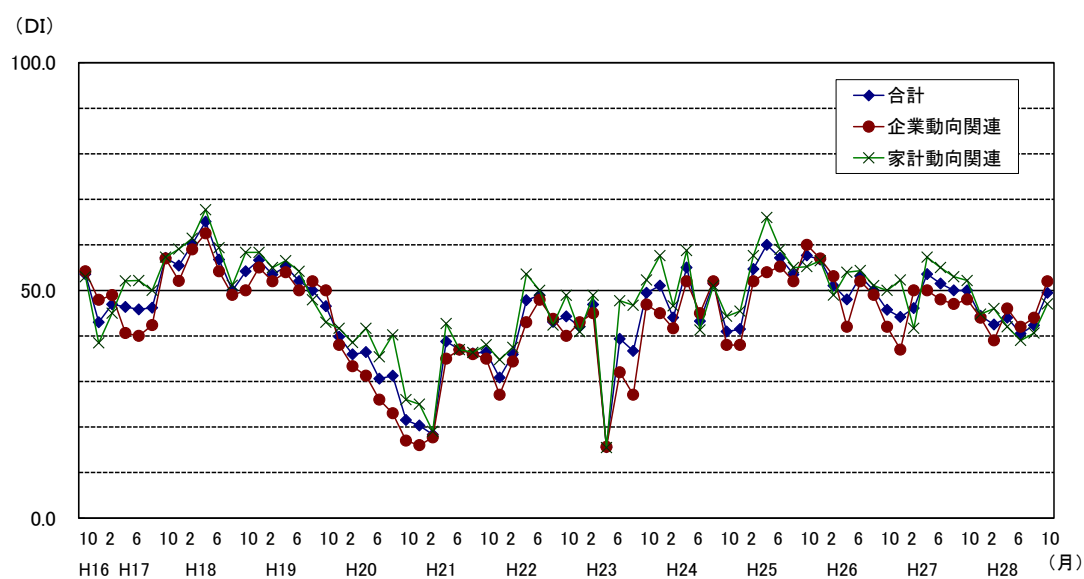
(DI)	平成28年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	40.5	42.3	49.5	(7.2)
家計動向関連	39.0	40.6	47.0	(6.4)
小売関連	30.8	45.8	46.2	(0.4)
飲食関連	—	—	—	(—)
サービス関連	50.0	39.3	53.6	(14.3)
住宅関連	—	—	—	(—)
企業動向関連	42.0	44.0	52.0	(8.0)
製造業	37.5	41.7	37.5	(-4.2)
非製造業	43.4	44.7	56.6	(11.9)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成28年	6	0.0%	14.0%	44.0%	32.0%	10.0%
	8	0.0%	10.2%	53.1%	32.7%	4.1%
	10	0.0%	22.0%	56.0%	20.0%	2.0%
(変化幅)		(0.0)	(11.8)	(2.9)	(-12.7)	(-2.1)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



## 2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で 49.5 と前回調査から 2.0 ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは 51.0 と、前回調査と変わらず横ばいで、企業動向関連D Iは 48.0 と、前回調査から 4.0 ポイント低下している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が 12.4 ポイント減少し、「悪くなる」と回答した人の割合が 8.0 ポイント増加した。

図表 2-1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

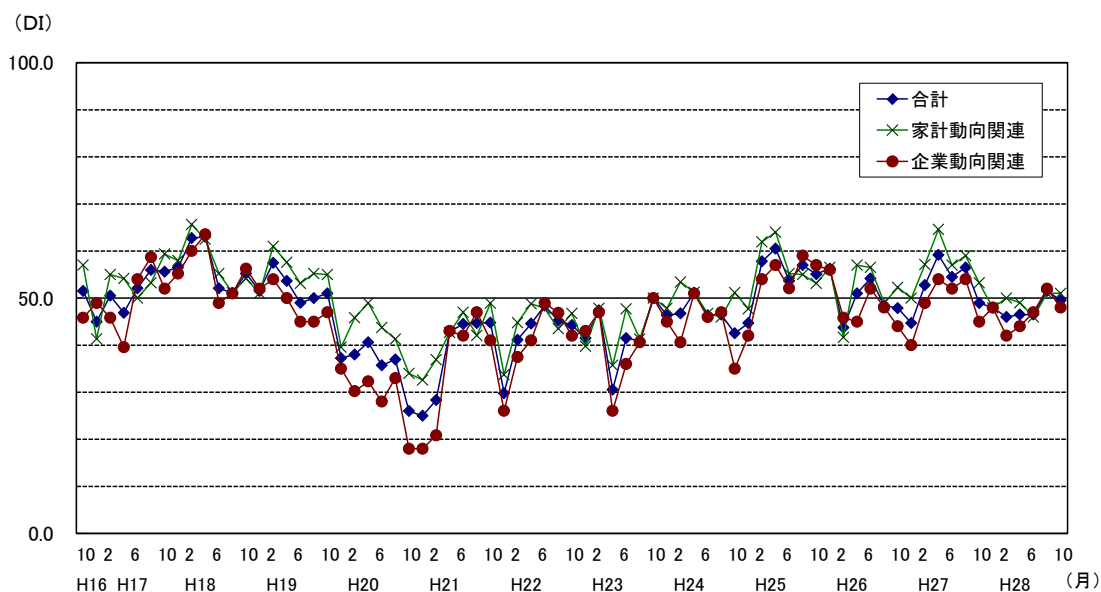
(D I)	平成28年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	46.5	51.5	49.5	(-2.0)
家計動向関連	46.0	51.0	51.0	(-0.0)
小売関連	38.5	52.1	44.2	(-7.9)
飲食関連	—	—	—	(—)
サービス関連	57.1	50.0	57.1	(7.1)
住宅関連	—	—	—	(—)
企業動向関連	47.0	52.0	48.0	(-4.0)
製造業	50.0	37.5	45.8	(8.3)
非製造業	46.1	56.6	48.7	(-7.9)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成28年	6	4.0%	16.0%	48.0%	26.0%	6.0%
	8	2.0%	22.4%	55.1%	20.4%	0.0%
	10	0.0%	22.0%	62.0%	8.0%	8.0%
(変化幅)		(-2.0)	(-0.4)	(6.9)	(-12.4)	(8.0)

図表 2-3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3－1 各分野における景気の現状水準判断D I の推移

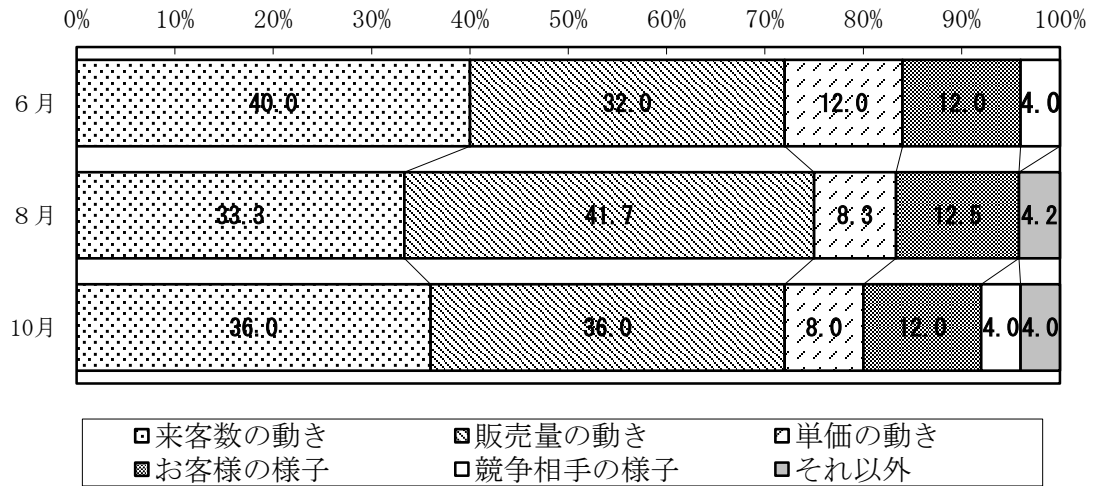
(D I)	平成28年		
	6月	8月	10月
合計	41.5	41.3	41.5
家計動向関連	39.0	35.4	35.0
小売関連	25.0	31.3	28.8
飲食関連	—	—	—
サービス関連	60.7	46.4	46.4
住宅関連	—	—	—
企業動向関連	44.0	47.0	48.0
製造業	45.8	50.0	33.3
非製造業	43.4	46.1	52.6

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

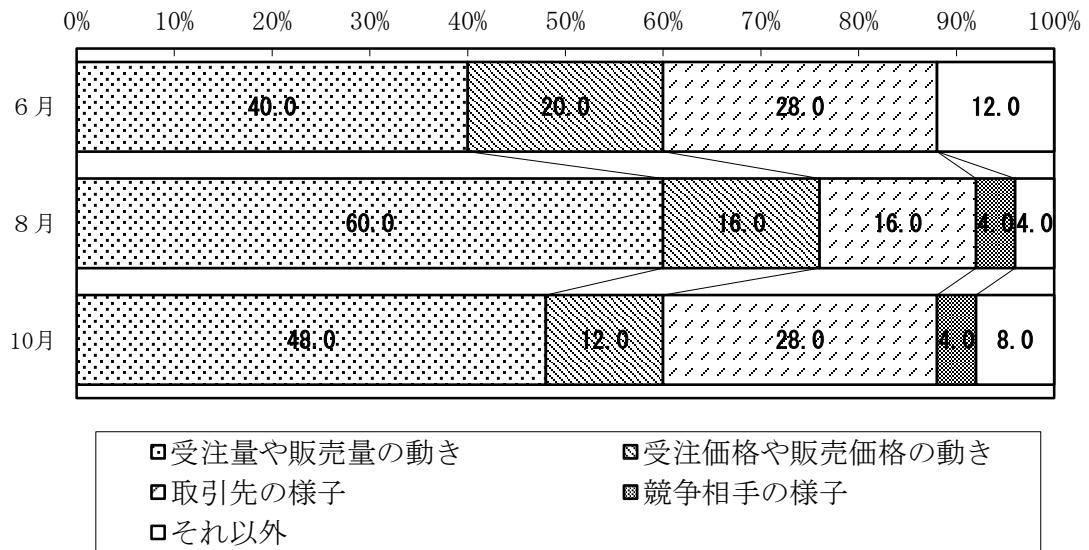
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	それ以外	・年末商材の手帳、カレンダーの動きが前年より良い。
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・8～9月は来客数、売上共にかなり減少したが、10月に入ってから活気が戻っている。
	変わらない	百貨店(総務担当)	単価の動き	・国内客、訪日外国人客共に客単価の下落が顕著である。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・紳士服、婦人服など秋物衣料の動きが鈍化している。婦人雑貨は、インバウンド需要などにより化粧品が好調に推移している。
		百貨店(業務推進担当)	来客数の動き	・百貨店のあり方を考えなければならない。
		百貨店(広報担当)	単価の動き	・宝飾品、時計などの高額品が浮上してこないことに加え、主力の衣料品が苦戦しており、回復の兆しはつかめていない。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・外国人観光客は増えているものの、買いだめなどの効果が少なくなり、買上点数が下がってきている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数の落ち込みは大きくないが、販売数量、1人当たりの買上点数は、前年比3～4ポイント悪く、その傾向は3か月前から続いている。
		衣料品専門店(店長)	競争相手の様子	・競合店をみると、良い店舗は非常に良く、悪い店舗は非常に悪いが、全体でみると前年とほぼ同じ数字である。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・外国人観光客の宿泊数はあまり変わらないが、国内客の宿泊が弱含みで、当日予約があまりない。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売数の前年同月比をみても顕著な動きは見られない。
	その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・例年であれば9～10月はいくらかずつ良くなっていくのだが、今年は天候不順が重なり、春からの悪さを今もって引きずっている。	
	やや悪くなっている	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	お客様の様子	・個人消費が減り続けている。
		一般小売店〔食品〕(店長)	販売量の動き	・客の様子をみると、前月は霽気的なものであったが、最近では、品選びや価格比較など具体的な変化が現れるようになってきている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今月の来客数は前年比85%と大幅に落ち込んでいる。特に、外国人観光客数が同比80%となり、前年良かった分がそのまま減少となっている。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・駅前立地からフリー客の来店を見込んでいるが、前月今月共に減少しており、予約状況の悪い日は商売としてかなり苦しくなる。特に、週明けの月曜日はその傾向が著しい。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・週末ごとの台風、降雨により客が来てくれない。
	悪くなっている	-	-	-
企業 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は増加傾向であるが、人材が不足している。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月比で売上額が増加している。
		卸売業〔飲食料品(鮮魚)〕(経営者)	受注量や販売量の動き	・当地が豊洲問題でメディアに度々取り上げられている影響で、今のうちに行っておこうという人が多く、閉店景気のようになっている。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	取引先の様子	・2～3か月前はやや減少していたが、納入時期がずれたため受注残があり、今月はまずまずの状況である。
その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・リオデジャネイロオリンピックの影響により、祝い花などオリンピック関連イベントからの注文がある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	新聞業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・リオデジャネイロオリンピックに関連し、協賛企業、アスリートのスポンサー企業からの広告出稿があるが、広告市場全体では力強さがなく、横ばいといったところである。
		出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・個人消費が低迷するなか、雑誌、書籍の販売も相変わらず苦戦している。
		印刷業・製本業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・業界的に全体的な物量が増加しているとはいえないが、個人消費等はインターネット販売に移行されているように見受けられる。
		金融業〔証券〕（営業担当）	それ以外	・購買意欲が極度に低下している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・前年まで人通りの多かった商店街も、7月以降は観光客も含めて減少している。
やや悪くなっている		印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子	・問い合わせや依頼の件数が減少している。静かな状況が続いており、動きが見えない。その影響で受注量も減少している。
		不動産業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・住宅販売価格が下落傾向である。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	取引先の様子	・取引先各社共に売上高が下がったまま、回復の兆しがない様子である。
悪くなっている		出版業（経営者）	それ以外	・飲食店などの客足は極端に悪くなっており、百貨店もがら空き状態である。

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・高額品の動きが良くなっている。年末商材の動きも良く、良いスタートが切れている。
		衣料品専門店(店長)	・気温の高い日が続いていたが、最高気温もようやく下がってきているので、秋冬物の需要が高まる。
		高級レストラン(副店長)	・宴会予約の状況など、8～9月に比べて動きが良い。
		一般レストラン(経営者)	・これから気候が良くなるので、来客数も増加すると期待している。
		通信会社(営業担当)	・政府が発表した10～12月期の景況指数がプラスの見通しであり、訪日外国人の増加で観光需要の増加も見込める。
	変わらない	一般小売店〔靴〕(店長)	・円高、株安が続く、上向くとは思えない。デパート、スーパーの売上不振は小売全体の傾向と思える。
		一般小売店〔食品〕(店長)	・政策による景気浮揚や上昇機運が現れない限り、現状と変わらないのではないか。
		百貨店(総務担当)	・気候等が要因となり、秋物需要が伸びない。加えて訪日外国人の買上内容が高額品から自家需要品にシフトし、依然として単価が下落している。
		百貨店(総務担当)	・インバウンド需要については、購買内容が身の回り品にシフトする傾向にあり、購買単価の低下など厳しい状況も予想されるため、注視していきたい。
		百貨店(広報担当)	・年末が近づくとつれ、冬物衣料や宝飾品等のニーズが出てくると思われるが、大きく伸びた前年実績には至らない。
		スーパー(店長)	・外国人観光客は増えているものの、客単価、買上点数が下がってきている。
		スーパー(店長)	・来客数の落ち込みは大きくないものの、必要な物のみ購入し、それ以外は購入しないという客の意識は続く。
		コンビニ(店長)	・売上は依然として低調で、あれこれ対策を講じてはいるが、打開策にはなっていない。ただ、今後更に売上が低下する要因も見受けられないため、現状がしばらく続く。
		高級レストラン(経営者)	・年末の景気は例年通りと見込んでいるが、宴会以外の来客の傾向としては、二次会や飲み直しの軽い利用が多い。
		一般レストラン(経営者)	・冷やかしの客は多いが、本当の来客は少なく、無駄な買物は少ない。
		都市型ホテル(経営者)	・国内、特に地方の景気が悪すぎる結果、ビジネス客に影響が出ている。地方に仕事を持って行っても成果が出にくい。
		旅行代理店(支店長)	・旅行関連イベントなども特になく、海外情勢についても2～3か月先は不透明である。
		通信会社(営業担当)	・いまだに経済活動全般に停滞感があり、早く2020年のオリンピック景気が来ないものかと期待している。
		競馬場(職員)	・来客数が伸び悩んでおり、売上の伸びはあまり期待できない。
	その他レジャー施設(経営者)	・春からの悪い状態がこのまま続くのではないだろうか。客の様子からも良くなっていくとは思えない。	
	設計事務所(所長)	・取引先からの問い合わせ、量、規模等が少なく、好材料が見当たらない。	
	やや悪くなる	○	○
	悪くなる	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	・販売量が前年同月を下回り続けている。
		百貨店(業務推進担当)	・訪日外国人の買物内容が変わり、爆買いも期待できない。百貨店の売上はますます悪くなっていく。
企業 動向 関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・例年、年度末に向け物量が増える傾向にあるが、正直読めない。
		輸送業(従業員)	・受注量が増加している。
		卸売業〔飲食品(鮮魚)〕(経営者)	・豊洲市場への移転問題の影響による閉店景気のような来客増はまだしばらく続く。
		その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	・ハロウィン、クリスマス、正月と装飾の仕事に加え、11月は世間的に年度の下半期の開始で法人関連からの注文が予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		新聞業（営業担当）	・リオデジャネイロオリンピック、パラリンピックも閉幕し、大きなトピックスはないが、ボーナス、年末商戦に向けての広告出稿に期待したい。
		出版業（営業担当）	・冬のボーナス時期にあたるが、一部の大企業を除いて、大多数の中小企業では増額などありえない。アベノミクスなど今や忘れ去られ、日銀の施策が不透明なことなどから、景気の低迷は続く。
		印刷業・製本業（営業担当）	・年末にかけて、注文や問い合わせも多少増えてくると思うが、あまり変化はないのではないかと。
		建設業（経営者）	・現在の受注量が今後とも変化しなければ良い。
		建設業（営業担当）	・受注が順調である。
		建設業（営業担当）	・仕事量も平均されて、変化はない。
		通信業（営業担当）	・影響を与えるような要因が見られない。
		通信業（営業担当）	・東京を主体とする不動産業界は変わらず活気がある。アパレル系は苦しいとの声を聞く。サービス業界はデフレ傾向で、コストを抑える流れがある。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・マイナス金利等、金融緩和策の更なる深堀りが懸念される場所ではあるが、目下、大幅な追加緩和となる実効策も見出せない状況にあり、為替の反転も想定しづらいため、当面は現状の景気環境が継続する。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・マイナス金利が続く限り、投資家の買い控えが継続される。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・大型案件が順調に推移しているため、一服感がある。ただし、下半期は厳しい受注状況が続く見込みである。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・年末から年始にかけては大きな物件がないため、例年通りと見込んでいる。
		経営コンサルタント	・年末に向けてバーゲンなどで消費が増加することを期待する。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・設備投資、雇用の増加等の投資に見合う利益確保のプラス材料が見当たらない。
やや悪くなる		不動産業（企画担当）	・住宅販売価格の下落傾向が続く。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・原油価格の変動が影響するのではないかと危惧する声、一部業者から出ている。
悪くなる		出版業（経営者）	・アベノミクスは失敗だと感じている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・得意先小売店の売上が悪いため、今後の仕入に影響が出るのではないかと。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	小売関連	13
	商店街・一般小売店	4
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	4
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	1
	設計事務所所長・職員	1
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
製造業経営者・従業員	6	
食品製造業	0	
繊維工業	0	
家具及び木材木製品製造業	0	
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	
出版・印刷・同関連産業	6	
新聞業	1	
出版業	2	
印刷業・製本業	3	
その他出版・印刷・同関連産業	0	
化学工業	0	
石油製品・石炭製品製造業	0	
プラスチック製品製造業	0	
窯業・土石製品製造業	0	
鉄鋼業	0	
非鉄金属製造業	0	
金属製品製造業	0	
一般機械器具製造業	0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0	
輸送用機械器具製造業	0	
その他製造業	0	
非製造業経営者・従業員	19	
建設業	3	
輸送業	1	
通信業	2	
金融業	2	
不動産業	1	
卸売業	6	
繊維・衣服等	2	
飲食品	1	
建築材料・鉱物・金属材料等	0	
機械器具	3	
その他卸売業	0	
サービス業	4	
広告代理店・新聞販売店[広告]	0	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1	
コピーサービス業	0	
その他サービス業	3	
その他非製造業	0	
その他企業の動向を把握できる者	0	